■ Tとことん、A会って、Cコミュニケーション!!

現役世代と後継者世代とで集 持ちを伝えるシー

織の存続が危ぶまれる事態に なりかねないという。 が低いことから、数年後には組 事業承継ブックの「気 ト」を活用し

が圧倒的に多く、 りも事業承継にたいする意識

織にも事業承継の提案を始め いる。構成員は団塊の世代 家族経営よ

JAしまねでは、集落営農組

集落営農組織もサポート

気がつきました。今後は父に教 立てていきます」(洋一さん) えてもらいながら、経営計画を を把握しきれていないことに

ことや取引先の情報など、経営 し合いを進めていくと、雇用の

文などの経営の実態を共有した。 「事業承継ブックにそって話 営農・経済・信用・共済の

当などが連携して対応するな 乗ってこれたと、原さんは自身 たからこそ、事業承継の相談に 各部署や地区本部、青年部担 Aの総合力を発揮でき

とJAの信頼を築くいちばん 「事業承継支援こそ、 組合員

県行政や農業大学校などとの 取り組みを、JA全体の取り組 の近道だと思います」 心となってスター J A しまねでは、T A C が 中

グがわからなくなっていた。で してくれて、息子の考えを聞く 気心知れたT

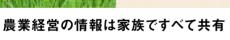
出てきていると、原さんは言う。 参加する後継者世代も少しずつ し合いの機会が生まれ、活動に 「プライベートな話も多く、ど

これこそJAの創造的自己改 らこそできる取り組みであり、 に乗っているうちに、JAだか はなかなか難しい。でも、相談 えた話し合いは、当事者だけで こまで踏み込んでよいか迷い トだと確信しました」 ありました。また、世代を超

イフプランを確認し、農業収

交えた三回めの話し合

久一さんは言う。T



事業承継ブックの22ページからの「経営の実態把握」 を記入していくと、経営規模や農業収支の内容がひと目 でわかるようになる。小松原家でも、「農機具を修理する ときはどのメーカーのだれに連絡するのかや、通帳の場 所、農業収支のことなど、父しか知らなかったことを知る ことができた」と、家族での情報共有が図れたという。



口に出せないことは JAしまね 文字で伝える 2015年に11のJAが合併し、1県1JAと

なった。広域JAのため、地区本部ごとに 事業承継ブックの12~13ページ「親子 支援態勢の差が出ないよう、相談窓口を の気持ちを伝えるシート」を記入すること 明確化。毎月TACと営農・経済・金融 で、ふだん口に出せないことも伝えられ 共済担当の職員が集まって会議を開くな る。洋一さんは、「父は一代で経営を大き ど、地区と部署の垣根を超えた連携を くしたという自負があることがわかりまし 図っている。また、TACの訪問活動に金 た。わたしもそれに恥じない経営をしてい 融や共済担当の職員が同行することも こうと、気が引き締まりました」と話す。ま ある。昨年11月に開かれた「TACパワー た、JAしまねでは、このシートを集落営農 アップ大会2017」でJA特別表彰(事業 用にもアレンジして使用している。





イラストは、JA全農TAC推進

課と地上編集部によるコラ

ボキャラクター「TACマン」

JA全農のHPで事業

承継ブックを公開中

事業承継支援こそ JAの創造的自己改革だ



島根県 JAしまね

自己改革の結果が求められているなか、TAC(地域農業の担い手に出向くJA担当者)が起点となった 事業承継支援が進んでいる。その取り組みは、JA全体を巻き込んだものへと

着実に広がりをみせている。また、事業承継は個々の家の問題でありながら、

集落全体の問題でもあり、集落営農組織での取り組みの模索も始まった。

前田博史=写真 photo by Hiroshi Maeda JA全農TAC推進課=企画協力



を避けられます」。左から、久一さん、洋一さん、幸二さん、JAしまねの原さん、斐川地区本部の青木雅至さん、小村幹生さん

「いつかは経営を引き継ごう

と話す洋一さんにたいし、

合いのテーブルにつけました」 るケースが多いという。JAL 「経営は譲れない」と、突き返され から親に事業承継を提案しても、 が間に入ってくれ、ようやく話・ せることも事業承継の一 ね営農対策部担い手対策課の **湃一さん(39)親子だ。** が、水稲二八 haと青ネギ二aを を使い、管内の農家の事業承継 てくれます」 継者に経営者意識を芽生えさ んどありませんでした。 生産する小松原久一さん(71) 「三○歳で就農しましたが、農 『業以外で父と話すことはほと 名義を変えるだけでなく、 間の話し合いのきっかけに~』 事業承継をめざしているの も事業承継に前向きになっ AC・原紀行さんはこう話す。 Aしまねでは、『今すぐ始め 事業承継ブック している。五年以内 つ。

TACについての詳しい情報は、JA全農HPのTAC紹介ページまで(https://www.zennoh.or.jp/tac/index.html) JA全農TACフェイスブックページ (https://www.facebook.com/tac.team.for.agricultural.coordination/)

承継部門)を受けた。